

スクールマネジメント実践報告書

24 有田小学校

あたたかく 理想を高く たくましく

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	地域を愛し、自立と共生ができ、未来をつくる子ども (郷土愛、自立、共生、社会力の育成)
我が校の目指す子ども像	様々な人とかかわり相手を思いやる子 ・ 学び合い、考えを深める子 進んで運動する子、生活習慣を身に付けている子



小中一貫教育の具体的な取組	
我が校の取組	中学校区の取組
<p>◎直東学園のキャリア教育の方針に沿った一貫教育の推進に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に高学年におけるキャリア教育の実践を積み重ねた。 ➡：中倉茂樹さんの講演 ：いじめ見逃しゼロスクール集会 ：「キャリア教育」を意識した「総合的な学習の時間」の実践を展開 ：マスコミ学習 	<p>◎キャリア教育を中核とした一貫教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連続したキャリア教育の実践 ・資質能力の育成状況を振り返る中学校区共通評価項目の設定と課題の確認 ・キャリアパスポートの改善と活用 ○人権感覚を磨く共通取り組みの実践（中倉茂樹さんの講演、いじめ見逃しゼロスクール集会） ○教科別学力向上部会の実施と押さえるべき学習内容の確認、学習の約束の見直し（10箇条⇒5箇条）
成果○と課題■	成果○と課題■
<ul style="list-style-type: none"> ○直東学園の小中一貫した取組に参加することや、校内における異学年交流を推進することで、最重要課題でもある「社会性の育成」が着実に図られた。 ○「キャリア教育校内研修」を実施し、キャリア教育の必要性やキャリア・パスポートの共通理解を図って実践できた。 ■学園内にあっても、当校の独自性を生かした教育課程の編成に取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度初のキャリア教育校内研修の実施により、キャリア教育の重要性を認識し、キャリア・パスポートへの共通理解をもった上で実践できた。 ○小中一貫した様々な上記共通取組の中で、児童生徒共に確実に成長した。 ■各校の独自性を生かしながら学校間連携を進め、各教科等における9年間のカリキュラムを編成し、直東学園における小中一貫した教育課程を編成していく取組を、さらに進める必要がある。

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
<p>総合的な学習の時間や生活科を軸として、栽培活動や飼育活動を取り入れた教育課程を開発し実践するため、飼育小屋・学校畑・学校畑・学級園などの拡充や補修、借用等を行った。活動では地域との連携を図り、先達としての願いや意見も取り入れた。体験活動を通じて、子どもたちに育成したいと考えた資質・能力が身に付いてきている。</p>	動物飼育活動	「ヒツジさんとなかよし」（1年）
	栽培活動	「育てよう・調べよう・伝えよう！きぼうのお米！」（5年）
	地域探検活動	「有田の「いいね」にじいる調査隊 ～見付けよう、伝えよう有田のよさ～」（3年）
<p>＜学校運営協議会の評価＞</p> <p>「主に育成したい資質・能力」の育成に寄与したかを評価するようにと提案を受けた。</p> <p>【動物飼育活動】 ➡ 4. 0</p> <p>【栽培活動】 ➡ 4. 5</p> <p>【地域探検活動】 ➡ 4. 7</p> <p>結果は上述のとおりであり、取組は子どもたちの育成に非常に効果的であると認める。今後も支援の継続を望むものである。</p>	<p>夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であったか？</p> <p>○ 当てはまる</p> <p>どちらかという当てはまる</p> <p>どちらかという当てはまらない</p> <p>当てはまらない</p>	

スクールのマネジメント実践報告書

学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	1人	保護者	1人	住民	7人	その他	3人	合計	12人
学校運営協議会の回数 ※()は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1学期	1回()	2学期	1回()	3学期	1回()	合計3回()	
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1学期	1回(1)	2学期	回()	3学期	回()	合計1回(1)	

活動の内容	成果○と課題■
<p>主に、下記の内容で熟議が為された。</p> <p>【第2回】 5/22 ・本年度の教育活動について ・R2学校運営協議会の振り返り確認 ・夢・志チャレンジスクール事業について ・コロナ禍への対応について ・GIGAスクール構想への対応について</p> <p>【第3回】 10/21 ・前期学校評価について ・保幼小連絡会の見直しについて ・有田小におけるインクルーシブ教育について ・家庭における大人のかかわりについて ・コロナ禍への対応について</p> <p>【第4回】 1/27 ・後期学校評価について ・夢・志チャレンジスクール、後援会からの支援について ・次年度ブランドデザインについて ・コロナ禍への対応について</p>	<p>○様々な学校課題について熟議することで、地域の考えや熱意を感じ取ることができた。</p> <p>○体験活動の講師やボランティアとして、様々な学習活動に参画した。特に6年総合では、実際に地域でボランティア活動を行っている経験や心意気を語っていただいたとき有益だった。</p> <p>■コロナ禍により児童の実態を参観いただく機会が少なかった。コロナ禍における情報発信のあり方や方策を考えなくてはならない。</p>

総括
<p>有田小学校の教育活動について、地域の皆様に参画していただいて熟議することの大切さを改めて実感した。地域の宝である子どもたちの育成について、有田小学校に期待をし、心から応援し支えようとの地域の強い願いを感じた。教育活動の質的向上のために地域を活用することは当然であり、さらに連携を強め、発展させていかななくてはならない。</p>

〈活動写真〉



○ヒツジを育てた1年生。最初はおっかなびっくり…。自分よりも大きな動物を育てて、生命への慈しみや責任感も育てました。



○有田の宝を見つけた3年生。知っているようで知らない「地域の宝」がありました。郷土を愛する「有田自慢の子」も増えました。



○地域の農家に学び、米づくりを体験した5年生。校外での販売活動は大盛況。生産することの大変さと喜びを実感することができました。